様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ０１７２２

研究課題名（和文）健康の社会的決定要因に関するパネル分析

研究課題名（英文）Longitudinal analysis of social determinants of health

研究代表者
小塩　隆士（OSHIO, Takashi）

一橋大学・経済研究所・教授

研究者番号：５０２６８１３２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、健康の社会的決定要因（social determinants of health; SDH）を大規模社会調査の個票データを用いて分析し、健康増進や社会的厚生向上のための政策的含意を得ることである。所得や学歴、就業などさまざまな社会経済行動が健康面のアウトカムや疾病リスクにどのように影響するか、また、健康が社会経済行動にどのようなフィードバック効果を及ぼすかが研究の中心的なテーマとなる。研究に際しては、個人の行動や健康の変化を経時的に追跡できるパネル調査の利点を最大限活用し、変数間の因果関係や動学的メカニズムの正確な把握に努める。

研究成果の学術的意義や社会的意義
健康の社会的決定要因に関する研究は、国内外で急速に進んでおり、その成果は数多く蓄積されているが、２ないし３時点比較の前向きコホート分析が主流であり、 10年超の長期にわたる詳細なパネル情報を用いた、しかも経済学的な視点を踏まえた分析はまだ少数派である。本研究は、①全国調査に基づく長期にわたる詳細なパネル情報を駆使するとともに、②既存の調査に基づく実証分析と補完的な性格を持っているという点で、国内外の研究に新たな知見を与えている。また、学術的な成果だけでなく、政府の社会保障改革の議論に直接資する情報を提供するという点で、一定の社会的価値を持つ。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to investigate social determinants of health, using data collected from large-scale social surveys and obtain policy implications for health promotion and social welfare. I focused on the analysis on the impact of socioeconomic factors including income, educational attainment, and job status on health outcome and health behavior as well as the feedback path from health to socioeconomic factors. I took full advantage of longitudinal data, which allowed me to examine how an individual's behavior and health outcome would evolve over time and thus identify their causal relationships.

研究分野：公共経済学

キーワード：健康の社会的決定要因　パネル調査　個票データ　中高年層　社会保障改革

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

英国における社会医学の権威 M. Marmot 教授や R.G. Wilkinson 教授らに主導される形で、健康の社会的決定要因（social determinants of health; SDH）に関する研究が近年急速に進められている。SDH とは、人々が日常生活を営む中で、健康に影響を及ぼすと考えられる様々な社会経済的要因を意味する。所得や学歴、就業、家族や職場、地域の特性やそこに住む人々との関係、保険・医療・福祉に関わるさまざまな社会経済制度、あるいは社会的規範など、多様で広範囲の要因がそこに含まれる。その SDH が人々の健康を決定するうえで重要な役割を果たしていることがこれまでの実証分析によって分かってきた。しかし、SDH がどのような機序で健康を左右するのか、また、健康が SDH にどのようなフィードバック効果を及ぼすかという点については、十分解明されていない状態にあった。本研究は、そこに焦点を当てている。

２．研究の目的

本研究の目的は、SDH を大規模社会調査の個票データを用いて分析し、健康増進や社会的厚生向上のための政策的含意を得ることである。所得や学歴、就業などさまざまな社会経済行動が健康面のアウトカムや疾病リスクにどのように影響するか、また、健康が社会経済行動にどのようなフィードバック効果を及ぼすかが研究の中心的なテーマとなる。

研究に際しては、個人の行動や健康の変化を経時的に追跡できる各種パネル調査の利点を最大限に活用し、変数間の因果関係や動学的メカニズムの正確な把握に努める。とりわけ、社会経済行動や健康面での変化が著しい中高年層を主要な研究対象とする。経済学のみならず、公衆衛生や社会疫学など健康科学にとっても新たな知見の獲得を目指すほか、「全世代型社会保障改革」など、少子高齢化時代における社会保障改革のあり方にも重要な示唆を得ることを目指す。

３．研究の方法

本研究では、第１に、厚生労働省「中高年者縦断調査」や独自調査「くらしと健康に関する調査」の個票を用いて、健康状態が就業行動にどのような影響を及ぼすのか、また、就業行動の変化が健康状態にどのような影響を及ぼすかを分析する。

第２に、SDH に対する外生的ショックの代表例として、「就職氷河期」（1993～2005 年）の経験を取り上げ、その健康面への影響を検討する。

第３に、厚生労働省「中高年者縦断調査」や独自調査「くらしと健康に関する調査」を用いることにより、社会参加活動の経験が代表的疾病の発症リスクやそのペースにどのような影響を及ぼすか、また、発症後のメンタルヘルスの変化（いわゆる“adaptation”（適応））にどこまで影響するかを分析する。

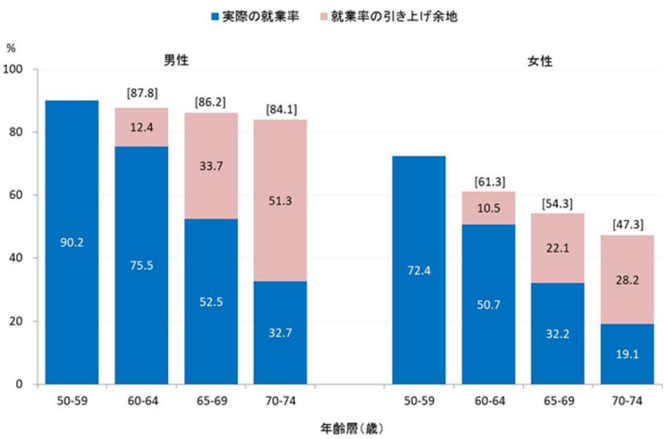
４．研究成果

本研究で得られた主な成果は、以下のようにまとめられる。いずれも、学術論文（査読論文 34 本）の形で発表されたほか、単行本の形で一般向けの解説も行っている。

(1) 高齢者の健康と就業との関係

就業が健康状態と連動する側面だけを取り出し、健康面から見た高齢者の「潜在的就業率」を試算すると、60 歳台後半でも男性は３割、女性は２割程度就業率を引き上げる余地があることが分かった（図 1）。そして、公的年金などの現行制度は健康な高齢者の就業にブレーキを掛けており、なかでも在職老齢年金や支給開始年齢の見直しは高齢者の就業促進効果を発揮することも確認された。

（図 1）高齢者の就業率はどこまで引き上げられるか



政府は 70 歳までの就業機会確保に取り組み始めているが、「雇用による措置」「雇用以外の措置」のいずれにおいても残された課題は少なくない。医療制度が拡充されてきたおかげで、私たちは昔に比べてずいぶん健康な生活を送れるようになっている。平均余命も伸張し、今の高齢者は昔の高齢者に比べて元気になっている。その一方で、少子高齢化が進み、社会を支える人が減って支えられる人が増えている。したがって、健康な高齢者の方々には、無理のない形でできるだけ社会を支える側に回ってもらうような仕組みにする必要がある。健康と就業、社会保障の間にこうした好循環を形成するためには、公的年金を始めとする制度面の見直しが必要になる。以上の点が、本研究から得られる政策的示唆である。

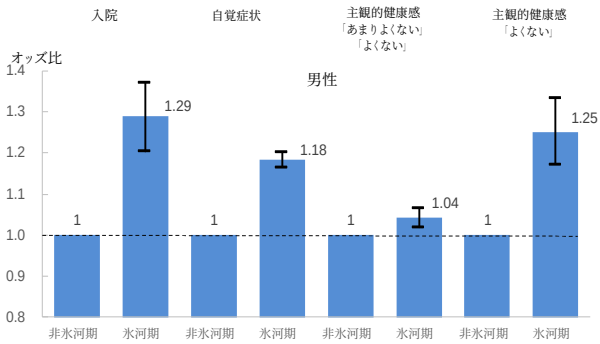
本研究は、全米経済研究所（NBER）が主催している、社会保障に関する国際比較研究

（International Social Security）の副産物的な色彩を持っている。現在では、アジア開発銀行（ADB）が同じ分析枠組みを用いて、日本を含むアジア諸国における国際比較研究に発展させている（進行中）。

(2) 就職氷河期世代の健康

就職氷河期世代の健康状態は、主観的な健康感、自覚症状、入院するリスクなどの面でほかの世代に比べて平均的に劣っていることが確認された（図２）。また、学校を卒業してから最初に就く仕事、つまり初職が正規かそれ以外でその後のメンタルヘルスが大きく左右されることも明らかになった。さらに、仕事に就かず、かといって社会参加活動も行わないで社会的に孤立することは、メンタルヘルスに深刻な問題を及ぼし得ることも示唆された。

（図２）就職氷河期世代の健康（男性）

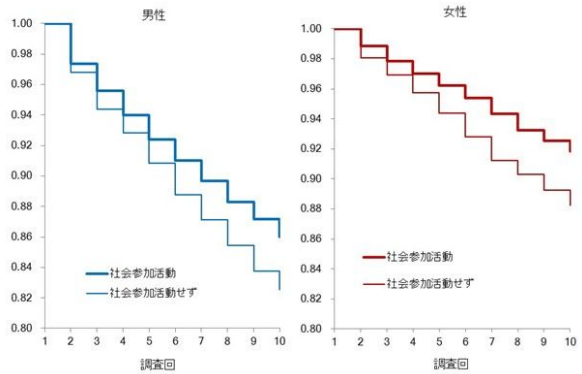


就職氷河期世代は、現在の労働力人口の２割を上回る人口規模を持っている。世の中でそれだけのウェイトを示す世代が健康悪化リスクに晒されているとすれば、公衆衛生という観点から見ても深刻である。しかも、就職氷河期世代が高齢化すると、問題はさらに深刻化する可能性が高い。所得・雇用環境が不安定で、年金保険料の拠出実績も不十分となる可能性が高いからである。公的年金を始めとして、社会保障の仕組みを将来の「貧困の高齢化」に備えて再編成する必要がある。

(3) 社会参加活動が健康に及ぼす影響

社会参加活動を行っていると、生活習慣病の中には糖尿病など、発症リスクが抑制されるものがあることが確認された（図 3）。また、生活習慣病が発症した場合の心理的な適応のペースも、社会参加活動によって加速される場合があることが分かった。さらに、SNS を通じた他人とのバーチャルなつながりは、リアルな社会参加活動に比べると限定的なものの、主観的健康感や生活満足度とプラスの相関関係にある。

(図 3) 社会参加活動と糖尿病の発症リスク



社会参加活動には、医療行為や投薬なしで疾病リスクを軽減でき、発症によるショックを緩和する効果もある。政策介入のコスト・パフォーマンスは悪くない。自治体は住民の健康増進という意味でも、社会参加活動の促進策を取り組むべきである。また、その人が社会参加活動を行っているかどうかという、容易に観測できるデータによって、その人の健康リスクがかなり把握できるのであれば、厳密な因果関係かどうかは別として、社会参加活動は健康リスクを予測する重要なシグナルとして有用であることが、本研究から示唆される点である。

以上の３点は、本研究が当初設定した目標に沿った成果だが、それに付随する形で以下のような研究成果も得られた。

(4) 非正規雇用と健康との関係

非正規雇用が健康にとって望ましくない、という一般的な言説の妥当性が統計的にも確認された。所得面で不利な立場に立たされるだけでなく、雇用が不安定で、将来の見通しが不透明なことが致命的である。また、自分が正規か非正規かに関わらず、住んでいる地域の就業形態が不安定であるほど、健康面で問題が出てきやすいことも明らかになった。さらに、非正規雇用になるほど、公的年金や医療保険などセーフティーネットから外れる可能性が高くなるが、それ自体が健康にマイナスの影響を及ぼすことも明らかになった。

正社員など正規労働を「良い働き方」とみなし、非正規労働などそれ以外の働き方を「悪い働き方」とみなして、正規労働化を進めることは現実的な対応策と言えない。多様な働き方を前提としつつ、働き方の違いによる不当な差別をなくすルール作りを優先するべきである。さらに、就業形態に関係なくすべての人たちがセーフティーネットの枠内にとどまれるようにする必要がある。被用者保険の対象範囲を拡大すると同時に、税額控除と社会保険料の相殺による低所得層支援など、セーフティーネットをより強靱なものにする工夫が求められる。

(5) 健康面から見た貧困の再定義

貧困の度合いを把握する尺度として、（相対的）貧困率がある。通常は、所得データを用いて

一定の貧困線を設定し、所得がそれを下回る世帯の比率を貧困率と定義する。本研究では、健康から見て意味のある貧困線や貧困率を、厚生労働省の「国民生活基礎調査」の 1986 年から 2016 年調査の世帯票・所得票・健康票の結果に基づき、健康格差最大化アプローチ、最尤法的アプローチという２つの方法によって探索的に検討した。貧困線は通常、所得中央値の 50%ないし 60%として定義されるが、健康格差を最も鮮明にするという意味で健康から見て意味のある貧困線は、そうした通常定義される貧困線の水準より幾分高めに設定される。したがって、貧困率も通常定義される貧困率も幾分高めになる。つまり、通常定義される貧困線や相対的貧困率の水準は、健康面から見るとやや低めになっていると評価できる。この結果は、低い学歴やセーフティーネットへの不参加など、ほかの貧困の影響を統制しても変わらない。

こうした結果が得られる背景には、健康が所得以外の要因によっても左右されることが考えられる。学歴や居住環境、セーフティーネットなど、所得以外の要因で問題があるとすれば、その問題を相殺するためには所得水準の引き上げが必要になる。

（6）社会的参加活動と健康との多様な関係性

本研究では、全体として社会的参加活動と健康との関係性に注目したが、上記（3）以外にも、以下のような様々な興味深い結果が得られた。

第１に、中高年の健康維持・増進については、職場や地域で実施される定期健康診断（健診）が需要な役割を果たすが、社会参加活動を活発に行っている人ほど健診を受け、さらに、健診後の医師のアドバイスに沿って再検査や受診をする傾向が、個人属性の影響を統制しても確認された。

第２に、定年後の健康は、定年を迎えた時点に居住していた地域における社会参加活動の度合いに無視できない影響を受けることが、多重レベル分析によって示された。社会参加活動を活発に行っているほど健康面にプラスの影響が出ることは広く知られているが、地域レベルにおける活動の度合いが引退した高齢者の健康を左右することは新たな知見と言える。

こうした知見は、健康一般についても当てはまる。すなわち、社会参加活動を活発に行っている地域に住んでいるほど、健康悪化のペースは低くなる。また、親の介護が始まった時点で、社会的参加活動を活発に行っているほど、メンタルヘルス悪化のペースは低くなることも明らかになった。

第３に、コロナ禍における人々の行動変容においても、社会参加活動が重要な役割を果たしていることが分かった。本研究の途中で日本はコロナ禍に突入したが、内閣府との共同研究を通じて、コロナ禍における人々の行動変容の分析を行うこともできた。例えば、コロナ禍発生前の時点ですでに社会参加活動を活発に行っている人々ほど、メンタルヘルス悪化の度合いは小さくなる傾向があることが確認できる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計34件（うち査読付論文　33件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　27件）

１．著者名 Xinxin Ma, Takashi Oshio	４．巻 -
２．論文標題 Public pension and subjective well-being among rural middle-aged and older adults	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Xinxin Ma ed., Public Pension Reforms in China、Springer. （図書所収論文）	６．最初と最後の頁 289～316
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-19-9997-0_14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Xinxin Ma, Takashi Oshio	４．巻 -
２．論文標題 Public pension and health among rural middle-aged and older adults	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Xinxin Ma ed., Public Pension Reforms in China、Springer. （図書所収論文）	６．最初と最後の頁 247～262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-19-9997-0_12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Takashi Oshio, Hiromi Kimura, Shingo Nakazawa, Susumu Kuwahara	４．巻 20
２．論文標題 Evolutions of self-rated health and social interactions during the COVID-19 pandemic affected by pre-pandemic conditions: Evidence from a four-wave survey	５．発行年 2023年
３．雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	６．最初と最後の頁 4594
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph20054594	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Takashi Oshio, Kemmyo Sugiyama,Toyo Assida	４．巻 -
２．論文標題 Effect of social activities on health checkups and recommended doctor visits: a fixed-effects analysis in Japan	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Industrial Health	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2486/indhealth.2022-0194	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Hiromi Kimura, Toshimi Nishizaki, Susumu Kuwahara	4．巻 164
2．論文標題 Pre-pandemic social isolation as a predictor of the adverse impact of the pandemic on self-rated health: A longitudinal COVID-19 study in Japan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Preventive Medicine	6．最初と最後の頁 107329
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ypmed.2022.107329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Kemmyo Sugiyama, Toyo Ashida	4．巻 20
2．論文標題 Impact of residing in neighborhoods of high social participation on health of retired workers: A multilevel analysis using nationwide longitudinal data in Japan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 SSM-Population Health	6．最初と最後の頁 101281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ssmph.2022.101281	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Hiromi Kimura, Toshimi Nishizaki, and Susumu Kuwahara	4．巻 19
2．論文標題 At which area level does COVID-19 infection matter most for an individual’s self-rated health? A multilevel fixed-effects model analysis in Japan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6．最初と最後の頁 8918
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph19158918	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shimabukuro Shizuka, Daley David, Endo Takahiro, Harada Satoshi, Tomoda Akemi、Yamashita Yushiro, Takashi Oshio, Guo Boliang、Ishii Atsuko、Izumi Mio, Nakahara Yukiko, Yamamoto Kazushi, Yao Akiko, Tripp Gail	4．巻 11
2．論文標題 The effectiveness and cost-effectiveness of Well Parent Japan for Japanese Mothers of Children with ADHD: Protocol for a randomized controlled trial	5．発行年 2022年
3．雑誌名 JMIR Research Protocols	6．最初と最後の頁 e32693～e32693
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2196/32693	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 小塩隆士	4．巻 204
2．論文標題 パンデミックによる行動変容：研究展望	5．発行年 2022年
3．雑誌名 経済分析	6．最初と最後の頁 66～92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小塩隆士	4．巻 73
2．論文標題 健康と貧困：新たな貧困率の推計の試み	5．発行年 2022年
3．雑誌名 経済研究	6．最初と最後の頁 210～224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Ryota Nakamura	4．巻 19
2．論文標題 Trends and determinants of cigarette tax increases in Japan: the role of revenue targeting	5．発行年 2022年
3．雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6．最初と最後の頁 4892～4892
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph19084892	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Kemmyo Sugiyama, Toyo Ashida	4．巻 99
2．論文標題 Does residing in a neighborhood of high social participation postpone deterioration in health among middle-aged adults? A multilevel survival analysis in Japan	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Journal of Urban Health	6．最初と最後の頁 235～244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11524-022-00620-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shizuka Shimabukuro, David Daley, Takahiro Endo, Satoshi Harada, Akemi Tomoda, Yushiro Yamashita, Takashi Oshio, et al.	4．巻 11
2．論文標題 The effectiveness and cost-effectiveness of Well Parent Japan for Japanese mothers of children with ADHD: Protocol for a randomized controlled trial	5．発行年 2022年
3．雑誌名 JMIR Research Protocols	6．最初と最後の頁 e32693
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2196/32693	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Peng Zhan, Xinxin Ma, Takashi Oshio, Yibo Mao	4．巻 15
2．論文標題 The elderly’s health capacity to work in China	5．発行年 2022年
3．雑誌名 China Economic Journal	6．最初と最後の頁 77～92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/17538963.2021.2003534	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Yuki Sekine, Takashi Oshio	4．巻 -
2．論文標題 Equity and efficiency in the safety net: social security law	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Takashi Yanagawa, Hiroshi Takahashi, and Shinya Ouchi eds., Econo-Legal Studies, Springer.（図書所収論文）	6．最初と最後の頁 121～148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-16-5145-8_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Akiomi Inoue, Akizumi Tsutsumi	4．巻 63
2．論文標題 Role ambiguity as an amplifier of the association between job stressors and workers’ psychological ill-being: evidence from an occupational survey in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Occupational Health	6．最初と最後の頁 e12310
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/1348-9585.12310	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Akizumi Tsutsumi, Akiomi Inoue	4．巻 63
2．論文標題 Determining whether periodic health checkups have any preventive effect on deterioration in health among middle-aged adults: A hazards model analysis in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Occupational Health	6．最初と最後の頁 e12291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/1348-9585.12291	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Kemmyo Sugiyama	4．巻 17
2．論文標題 Social participation as a moderator for caregivers’ psychological distress: a dynamic panel data model analysis in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Applied Research in Quality of Life	6．最初と最後の頁 1813～1829
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11482-021-10007-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio	4．巻 47
2．論文標題 Job dissatisfaction as a predictor of poor health among middle-aged workers: a 14-wave hazards-model analysis in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Scandinavian Journal of Work, Environment & Health	6．最初と最後の頁 594～599
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5271/sjweh.3985	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Satoshi Shimizutani	4．巻 33
2．論文標題 Will working longer enhance the health of older adults? A Pooled analysis of repeated cross-sectional data in Japan	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Journal of Epidemiology	6．最初と最後の頁 15～22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2188/jea.JE20210030	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio	4．巻 -
2．論文標題 Health capacity to work and its long-term trend among the Japanese elderly	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Xinxin Ma ed., Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia, Springer.（図書所収論文）	6．最初と最後の頁 133～160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-16-0554-3_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio	4．巻 31
2．論文標題 Association between area-level risk of job instability and workers’ health: a multi-level analysis using population-based survey data from Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Epidemiology	6．最初と最後の頁 203～209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2188/jea.JE20200032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Xinxin Ma, Xiangdan Piao, Takashi Oshio	4．巻 20
2．論文標題 Impact of social participation on health among middle-aged and elderly adults: evidence from longitudinal survey data in China	5．発行年 2020年
3．雑誌名 BMC Public Health	6．最初と最後の頁 502
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12889-020-08650-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio	4．巻 31
2．論文標題 What factors affect the evolution of the wife’s mental health after the husband’s retirement? Evidence From a population-based nationwide survey in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Epidemiology	6．最初と最後の頁 308～314
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2188/jea.JE20200071	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio	4．巻 -
2．論文標題 Why is future design needed in Japan? Public finance perspective	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Tatsuyoshi Saijo ed., Future Design, Springer（図書所収論文）	6．最初と最後の頁 187～196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-15-5407-0_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Xinxin Ma, Takashi Oshio	4．巻 20
2．論文標題 The impact of social insurance on health among middle-aged and older adults in rural China: a longitudinal study using a three-wave nationwide survey	5．発行年 2020年
3．雑誌名 BMC Public Health	6．最初と最後の頁 1842
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12889-020-09945-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Hiromi Kimura, Toshimi Nishizaki, Takashi Omori	4．巻 15
2．論文標題 Association between the use of social networking sites, perceived social support, and life satisfaction: Evidence from a population-based survey in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 PLOS ONE	6．最初と最後の頁 e0244199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0244199	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio	4．巻 32
2．論文標題 Is caring for grandchildren good for grandparents’ health? Evidence from a fourteen-wave nationwide survey in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Journal of Epidemiology	6．最初と最後の頁 363～369
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2188/jea.JE20200529	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Akiko S. Oishi, Satoshi Shimizutani	4．巻 -
2．論文標題 Social security programs and elderly employment in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Axel Boersch-Supan, Courtney C. Coile eds., Social Security Programs and Retirement around the World: Reforms and Retirement Incentives, The University of Chicago Press (図書所収論文)	6．最初と最後の頁 271～296
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Masaki Okuda, Yukinobu Ichida, Keita Yamane, Rika Ohtsuka, Miwa Yamaguchi, Rei Goto, Atsuhiro Yamada, Atsushi Sannabe, Naoki Kondo, Takashi Oshio	4．巻 3
2．論文標題 Preferences for the forms of co-payment and advance payment in healthcare services; a discrete choice experiment	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Asian Pacific Journal of Health Economics and Policy	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6011/apj.2021.01	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Takashi Oshio, Hiromi Kimura, Toshimi Nishizaki, Takashi Omori	4．巻 21
2．論文標題 How does area-level deprivation depress an individual’s self-rated health and life satisfaction? Evidence from a nationwide population-based survey in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 BMC Public Health	6．最初と最後の頁 523
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12889-021-10578-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Marie Hirakawa, Emiko Usui, Nahoko Mitsuyama, Takashi Oshio	4．巻 20
2．論文標題 Chances of pregnancy after dropping out from infertility treatments: evidence from a social survey in Japan	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Reproductive Medicine and Biology	6．最初と最後の頁 246～252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/rmb2.12377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小塩 隆士、菅万理	4．巻 71
2．論文標題 学歴は中高年の健康をどこまで左右するか	5．発行年 2020年
3．雑誌名 経済研究	6．最初と最後の頁 259～274
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小塩 隆士	4．巻 5
2．論文標題 所得連動返還型奨学金制度：意義と課題	5．発行年 2020年
3．雑誌名 社会保障研究	6．最初と最後の頁 313～324
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 小塩隆士
2．発表標題 「子供の貧困」と成人期の健康
3．学会等名 日本産前産後ケア・子育て支援学会（招待講演）
4．発表年 2023年

〔図書〕　計1件

1．著者名 小塩 隆士	4．発行年 2021年
2．出版社 日経BP 日本経済新聞出版本部	5．総ページ数 352
3．書名 日本人の健康を社会科学で考える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関